

平成25年 1月 7日

武雄市長 樋 渡 啓 祐 様

武雄市立武雄市民病院移譲先病院評価委員会
委員長 信 友 浩 一

平成23年事業年度の業務実績に関する評価結果

1 評価の方法

武雄市立武雄市民病院移譲先病院評価委員会において新武雄病院の運営状況について評価を行った。評価は、当該法人より提出された平成23年事業年度に係る業務実績報告書をもとに評価の基本方針（平成23年1月24日策定）及び年度評価実施要領（平成23年1月24日策定）により行っている。

評価については、各年度実施する年度評価と目標期間を3年とする中期目標期間評価に大別し、今回は2年次の年度評価を小項目評価、大項目評価及び全体評価で行った。評価手法の概略は次のとおり。

- ・小項目評価 法人による5段階の自己評価と法人からのヒヤリング等を通じて、各委員により評価。
- ・大項目評価 各委員の評価を独立した評価として取り扱い 評点に応じて5段階で評価。
- ・全体評価 中期計画の進行状況全体について総合的に評価。

2 小項目評価

小項目評価の結果を次に示す。各委員において評価にばらつきがあったが、個々の委員の評価を尊重するためそれぞれ独立した評価とした。また、会議の内容及び評価点数を補足するものとして評価コメント等を参考として追記した。

※判定基準

- 5 年度計画を大幅に上回って実施している。
- 4 年度計画を上回って実施している。
- 3 年度計画を順調に実施している。
- 2 年度計画を十分に実施できていない。
- 1 年度計画を大幅に下回っている。

(1) 武雄市民病院事業譲渡契約の履行に関する事項

小項目	小項目細区分	法人評価	委員の評価別人数				
			1	2	3	4	5
救急医療の確保	救急医療の確保	5				4	1
〃	消防との連携強化	4			3	2	
地域医療機関との連携		4				5	
診療科目、病床数等		5			2	3	
保健医療行政への協力		4			1	4	
病院の運営に関する意見の聴取等		4			1	4	
地域住民の意見の聴取		5		1	1	2	1
病院の継続運営		4			3	2	

○救急医療の確保

(評価できる点)

- ・救急患者の受け入れについてはトリアージが行われたうえで最適な医療機関へ受け入れを依頼している模様である。

(改善又は要望事項)

- ・日中において循環器系の医師が不足気味な時期があったようである。(現在は解消しているようである。)
- ・対応できる医師がいなくなり救急の受け入れが不能にならないように外来の受け入れ態勢を工夫することも必要だと考える。

○地域医療との連携

(評価できる点)

- ・市外の医療機関との連携は図られてきている模様である。
- ・医療機関によっては良好な関係を築いているところもあり、徐々に連携が行われている模様である。(コメント)

(改善又は要望事項)

- ・医師会への入会がなかなかできない状況のようであるが、ある程度時間をかけて信頼関係を深めていくしかなく、今後も根気強く加入へ向けての環境づくりを行って欲しい。
- ・武雄市民はなかなか診察を受けず、病気が悪化しないと病院に来ないとのことだが、時間外受付の充実によりコンビニ外来化しないようには注意して欲しい。

○診療科目、病床数等

(改善又は要望事項)

- ・病床利用率が95%を超えることは異状な状態であると思う。増床の手段を検討する必要がある。

○保健医療行政への協力

(評価できる点)

- ・積極的な営業活動により健診率が向上している。

○地域住民の意見の聴取

(改善又は要望事項)

- ・地域評議委員会の開催回数は増やすべきと考える。また会での意見内容についても公表したほうが企業のイメージアップにもつながるので実施したほうがよいと思われる。

○病院の継続運営

(評価できる点)

- ・嬉野医療センターとの連携も多く行われているとともに、その他の医療機関との連携もされている。

(改善又は要望事項)

- ・武雄市民病院移譲先選考委員会において当該法人の税務申告は武雄市で行ってもらいたいとの意見が出されている。地域で上がった収益はできる限り地域に還元できるよう非営利団体である趣旨にそった経営形態を望む。

(2) 医療サービスの質に関する事項

小項目	小項目細区分	法人 評価	委員の評価別人数				
			1	2	3	4	5
地域医療に必要な高度医療の充実	高度医療の充実	4			2	3	
	高度医療機器の計画的な更新整備	4				5	
医療スタッフの確保、専門性及び医療技術の向上	医療スタッフの確保	4			1	4	
	専門性及び医療技術の向上	4				5	
より安心して信頼のできる質の高い医療の提供	医療安全対策の徹底	4			1	4	
	患者中心の医療の実践	3			5		
	科学的な根拠に基づく医療の推進	4			1	4	
法令行動規範の遵守		4			2	3	
研修研究会を通じた地域医療への貢献		5			1	4	
診療待ち時間の改善等		4			1	4	
患者・来院者のアメニティの向上		4				5	
患者の利便性向上		2		5			
災害時における医療協力		4				5	
市民への保健医療情報の提供・発信		4				5	

○医療スタッフの確保、専門性及び医療技術の向上

(評価できる点)

- ・不足する診療科目に対する医師の常勤化など医師数の充実については評価できる。(コメント)

○より安心して信頼できる質の高い医療の提供

(改善又は要望事項)

- ・インフォームドコンセントの徹底と実施率の把握のためには、退院時のマニュアルの中にチェック項目を盛り込んでいくと徹底が図られると考える。

○研修研究会を通じた地域医療への貢献

(改善又は要望事項)

- ・日常的なケースカンファレンスの開催数の増加に努力して欲しい。

○診療待ち時間の改善等

(改善又は要望事項)

- ・看護師については思いやりと気配りがあるようだが、窓口等の事務部門については、対応を少し改善する必要があると思われる。

○市民への保健医療情報の提供・発信

(評価できる点)

- ・健康教室の開催を精力的に行われ、その参加数により成果が見られ評価できる。(コメント)

(3) その他

小項目	小項目細区分	法人 評価	委員の評価別人数				
			1	2	3	4	5
経営の効率化	法人としての運営管理体制の確立	4			1	4	
	業務執行体制の見直し	4			1	4	
	職員の職務能力の向上	4				5	
	収入の確保と費用の節減	4			1	4	
当該医療圏での不足医療の把握		4			3	2	
地域貢献		4			3	2	

○経営の効率化 (職員の職務能力の向上)

(評価できる点)

- ・離職率が低いということは職場環境が良好であることの表れと思われる。引き続き労務管理の徹底に努められたい。

○当該医療圏での不足医療の把握

(評価できる点)

- ・他の医療機関との連携も徐々に進んできているように見受けられる。時間が必要だと思われるので今後に期待したい。(コメント)

(改善又は要望事項)

- ・回復期リハビリテーションは患者にとって大切なものであるため受け皿としての地域医療機関との連携は重要である。(コメント)

○地域貢献

(評価できる点)

- ・地域連携室の職員は大変がんばっている。

3 大項目評価

大項目評価については、各委員の小項目の評価結果を集計し、その評価点数に応じて中期目標・中期計画の達成に向けた業務の進捗状況について評価した結果、次表のとおりとなった。

【判定基準】

- 「特筆すべき進捗状況」 中期目標・中期計画の達成に向けて特筆すべき進捗状況にある。
(評価委員会が特に認める場合)
- 「計画どおり」 中期目標・中期計画の達成に向けて計画どおり進んでいる。
(すべての項目が5～3)
- 「おおむね計画どおり」 中期目標・中期計画の達成に向けておおむね計画どおり進んでいる。
(5～3の割合が9割以上)
- 「やや遅れている」 中期目標・中期計画の達成のためにはやや遅れている。
(5～3の割合が9割未満)
- 「重大な改善事項あり」 中期目標・中期計画の達成のためには重大な改善事項がある。
(評価委員会が特に認める場合)

大項目	小項目 評価数	各委員の小項目評価結果					大項目評価
		1	2	3	4	5	
武雄市民病院事業譲渡契約の履行に関する事項	8	0	1 (2.5%)	11 (27.5%)	26 (65%)	2 (5%)	おおむね計画どおり
医療サービスの質に関する事項	14	0	5 (7.1%)	14 (20.0%)	51 (72.9%)	0	おおむね計画どおり
その他 (経営の効率化、当該医療圏での不足医療の把握、地域貢献)	6	0	0	9 (30.0%)	21 (70.0%)	0	計画どおり

(1) 武雄市民病院事業譲渡契約の履行に関する事項

中期目標・中期計画の達成に向けておおむね計画どおり進んでいるとの評価となった。昨年度は、移譲後初年度の過渡期であったことから「やや遅れている」という評価であったが、本年度は1段階評価が向上した。移譲契約には盛り込むことはなかったが、武雄市民病院移譲先選考委員会において意見として出た「地域で上がった収益はできる限り地域に還元できる非営利団体である趣旨にそった経営形態」については努力願いたい。

(2) 医療サービスの質に関する事項

中期目標・中期計画の達成に向けておおむね計画どおり進んでいるとの評価となった。患者の利便性向上に関する取り組みが無かったため評価が低い箇所が見受けられる。医師の確保に関し評価が高い一方、医療スタッフ以外の職員の接遇に不十分さを指摘する声もあった。病院側としても認識している事項でもあるので今後のサービス向上に期待したい。

(3) その他（経営の効率化、当該医療圏での不足医療の把握、地域貢献）

中期目標・中期計画の達成に向けて計画どおり進んでいるとの評価であった。昨年度の「おおむね計画どおり」との評価より本年度は1段階評価が向上した。経営の効率化に関しては、法人と評価委員の双方で評価が高い結果となっている。小項目評価の2（年度計画を十分に実施できていないとする評価）が一つもなく計画どおり着実に進んでいるということは大きく評価できる。

4 全体評価

大項目評価は、「やや遅れているという」評価がなくなり「おおむね計画どおり」及び「計画どおり」という評価で占められ、前年度より評価は向上した。

小項目評価の点数を見ると法人の自己評価と各委員の評価が前年度に比べ類似している。双方の評価点が低い部分は、共通認識として課題点と認められる部分であろうからこれからの改善を期待したい。

市民の健康の視点から考えると各種健診（検診）の実施数や健康教室の実施状況など大きく評価できる点だと考えられる一方、新武雄病院への需要の高さによる高い病床利用率などは救急患者の受け入れにも影響が予測されるので、これらの対応策が今後は重要になる。また、地域医療の充実のためには他の医療機関との連携は不可欠であるため今後とも連携整備に努められたい。

本年度の評価は、新武雄病院が思い描く病院の姿である国道34号沿線へ移転新築して初めての評価年度であり今後の基準となる重要な年度であった。本審査委員会も2年度（2回目）ということもあり各委員も前年度の結果を考慮し経年的な評価も実施することができたと考えている。本年の評価結果をもとに今後の課題点の改善に期待したい。